

2. 8 利用居室の出入口

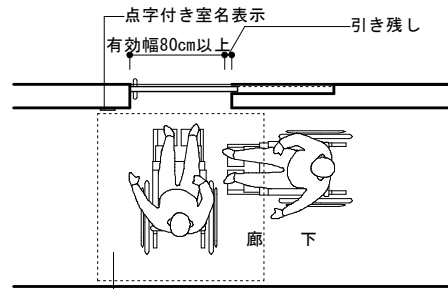
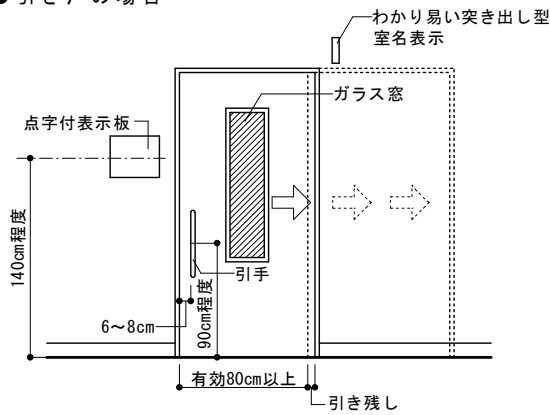
◆設計の考え方◆

- ・利用居室の出入口は、高齢者・障害者等が支障なく利用できると同時に、利用居室の名称等を分かりやすく表示する。
 - ・利用居室の主要な出入口は、十分な幅員を確保するとともに、段が生じないように設計する。改修等の場合でやむを得ず段が生じる場合は傾斜路を併設する等、高齢者・障害者等の利用に十分配慮する。
 - ・戸の形式は、車いす使用者の利便を考慮し、引き戸が望ましく、外開き戸とする場合は、通行者に危険がないような配慮が必要である。
- *利用居室とは、不特定かつ多数の者が利用し、または主として高齢者、障害者等が利用する居室をいう。

● 利用居室の出入口の設計標準

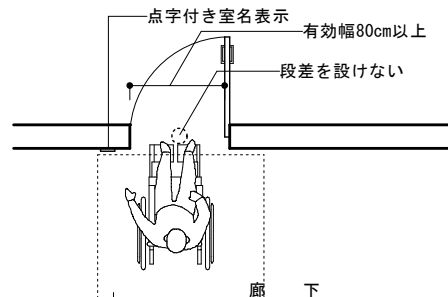
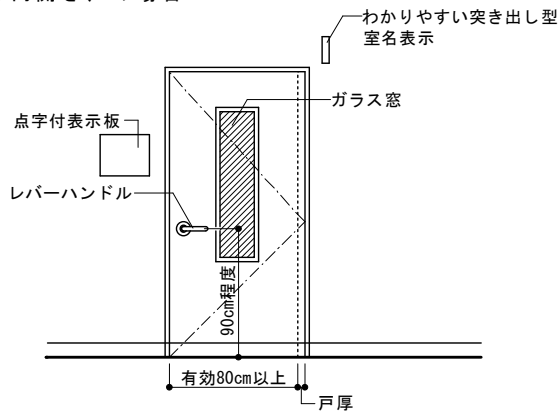
利用居室の出入口 1

● 引き戸の場合



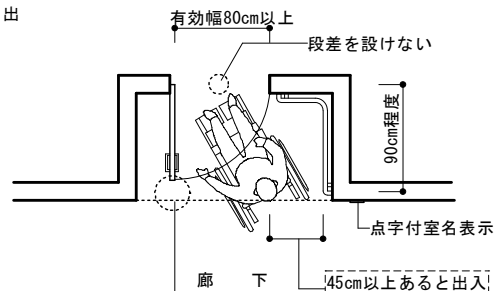
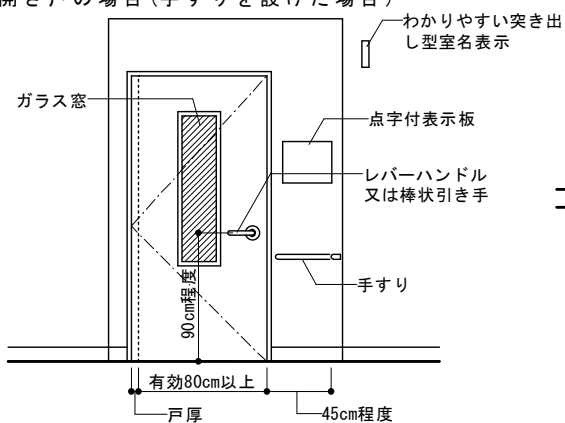
140×140cm以上の転回できるスペースを確保することが望ましい

● 内開き戸の場合



140×140cm以上の転回できるスペースを確保することが望ましい

● 外開き戸の場合(手すりを設けた場合)

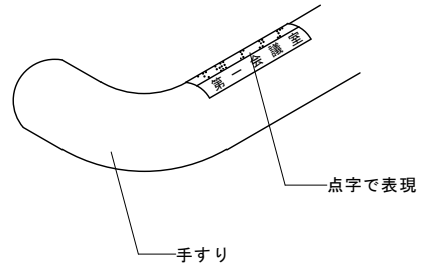
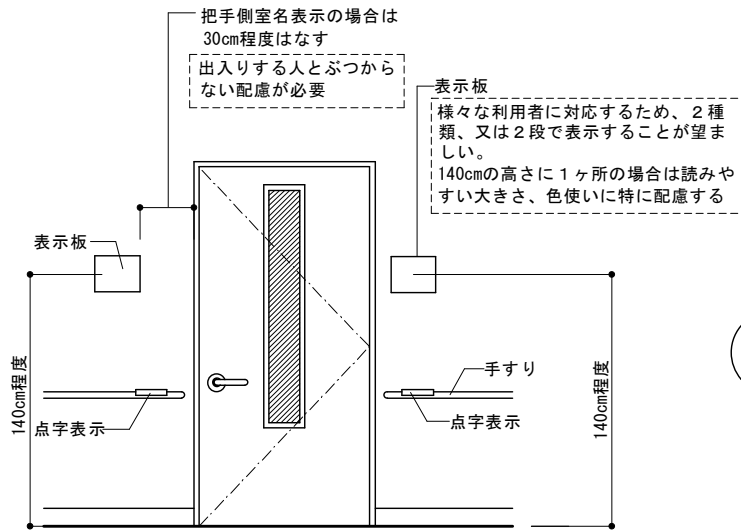


45cm以上あると入りやすい

戸は壁面線を越えない構造が望ましい

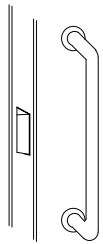
利用居室の出入口 2

● 表示例

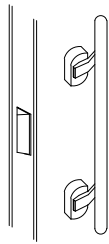


● 使いやすい把手

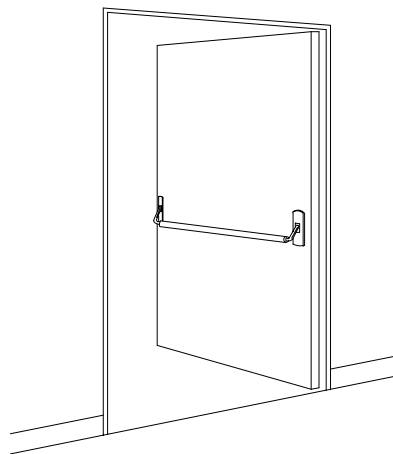
棒状



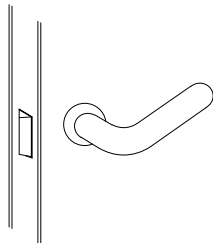
プッシュプルハンドル



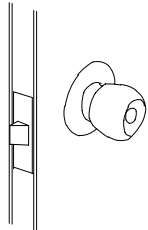
パニックバー



レバーハンドル

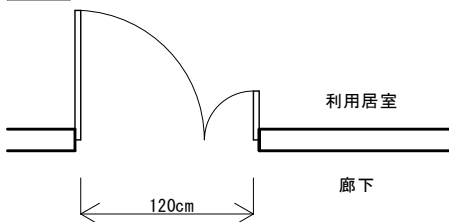


握り玉 ×

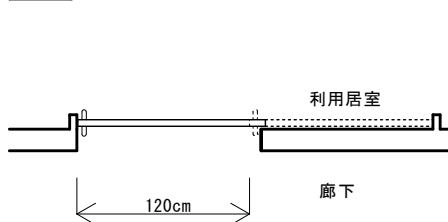


● 改善例 1

改善前



改善後



- ・開き戸を引き戸に改善する
- ・壁を壊さずに利用居室側に引き戸枠壁を増設する